R&Dフェーズ｜開発　**実用化時期**｜FY26-

Mehr Licht!
More Photonics for Intelligence

#A14

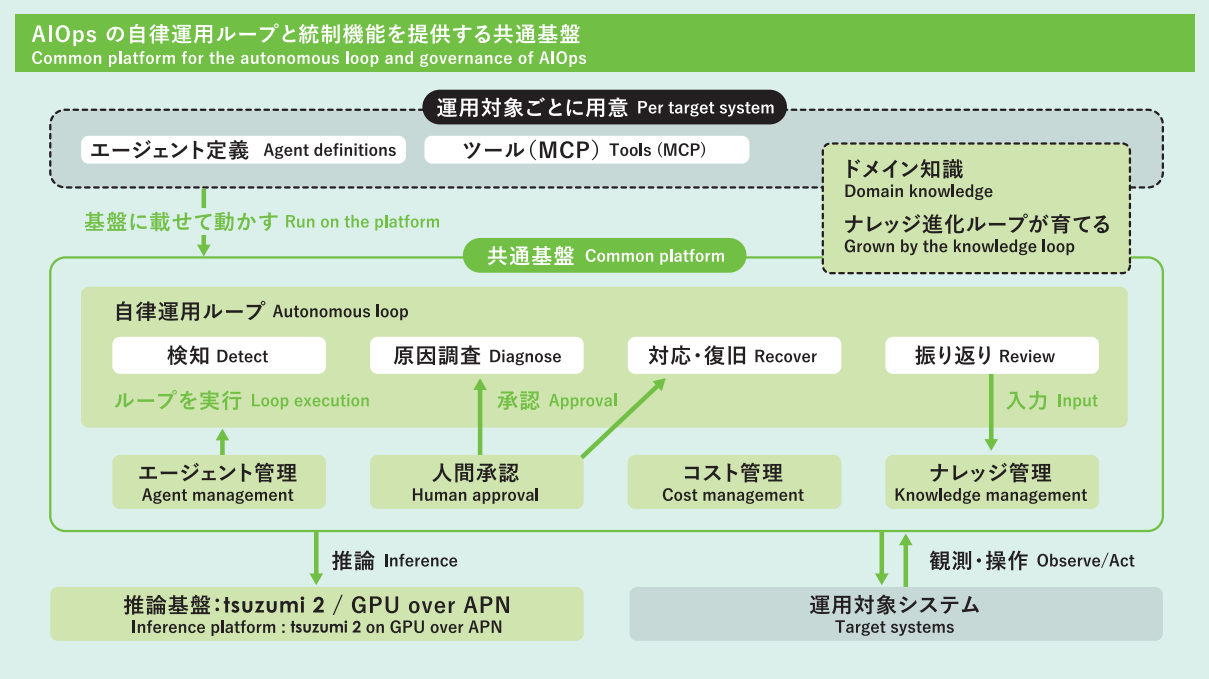
#DX・AX（デジタル変革）#AI倫理・責任あるAI#業務効率化

AIOWN活用のAIOpsプラットフォーム

AIエージェントが障害を自律で復旧し、対応ノウハウを組織の資産として育てます

技術課題・ゴール

通信やITの運用現場では、システムの複雑化と担い手の不足が同時に進み、24時間365日の安定運用が難しくなっています。従来の自動化は手順を固定したスクリプトに依存するため想定外の事象に弱く、熟練者の判断は形式知として残りません。AIエージェントが調査から復旧までを自律的に行い、その過程で得た対応知を構造化して蓄積・進化させることで、人手の増員に頼らない安定運用と、社会基盤の強靭化を実現します。



技術ポイント

要素技術

・対応の全工程から因果関係を自動抽出し、引用実績で評価・淘汰するナレッジ進化ループ。根拠を辿れる形で蓄積し次の対応に引用

・責任範囲の形式化と多段監査ゲートによる実行統制。判断をAIに委ねない設計。推論エンジンにGPU over APNのtsuzumi 2を活用

市中技術差異点

・検知と対応が別システムに分かれる従来型と異なり、検知から復旧・振り返りまでを単一基盤で一気通貫に実行

・知識が個別エージェントに閉じる特化型と異なり、運用知を横断の層に蓄積し、根拠を示して再利用

適用ビジネス/ユースケース

コミュニケーションサービス

インターネットバックボーンやクラウドインフラなどの設備運用において、障害検知から原因調査、復旧処置、振り返りまでをAIエージェントが自律的に実行します。障害対応の記録からナレッジが生成され、次の障害対応で活用されることで、運用ノウハウが組織の資産として自動的に蓄積されます。

出展組織
NTTドコモビジネス株式会社 イノベーションセンター